

ボッチャ交流会

郡上人権擁護委員協議会

「ボッチャ」とは、イタリア語で「ボール」を意味しているそうです。

令和6年5月10日（金）岐阜県ボッチャ協会の方と所属選手2名が人権推進校の郡上市立牛道小学校を訪問され、5・6年生の児童と交流会が行われました。

協会の方に、「ボッチャをやったことがある人は？」と聞かれた子どもたちは、一瞬キョロキョロと周りを見ました。体験者は、いません。でも、「ボッチャ」という言葉を聞いたことがある児童は、半数以上いました。

協会の方から、競技の進め方を教わりました。赤と青のチームに分かれます。ジャックボールと呼ばれる白いボール（目標球）を投げた後、赤・青チームがそれぞれ6球ずつボールを投げる、転がすなどして白いボールに近づけます。白いボールに、より近かったチームの勝ちとなります。

模擬ゲームで対戦するのは、ボッチャの選手の方と担任の先生です。投げたボールがどこで止まるか、みんなボールの行方に釘付けになりました。コートを外れて出て行くボールにがっかりしたり、ジャックボールに近づくと拍手が出たりと、少しずつゲームが盛り上がっていきました。

自分たちのゲームが始まると、口をつぐんでいた子どもたちから、どんどん言葉が出るようになりました。投げたボールに向かって、「もう少し転がれ！」「止まれ！」「近づけ！」

などと叫びながら、ハンドパワーを送る姿もありました。選手の方に応援され、張り切る姿、「どの辺をねらえば良いですか？」と選手の方にアドバイスを求める姿もあり、ゲームを通して自然と交流が生まれていました。

相談できたり、励ましたりと、選手の方と交流ができたボッチャの体験は、児童たちを成長させてくれたように感じました。

